

小林にゆかりのある「がんばる若者」を紹介！

第3回こばやし霧島連山絶景マラソン大会
ハーフマラソン 優勝(1時間 12分 52秒)

そのだ りょうすけ

園田 亮介 さん (25)



地元の声援が力になり優勝できた 走ることので地域へ恩返ししたい

ハーフマラソンが今年から始まった「こばやし霧島連山絶景マラソン大会」。起伏の激しいコースを制した初代チャンピオンは園田亮介さん、25歳(細野)。「『亮介！がんばれ！』と地元の声援が力になり優勝することができました」。園田さんは高校から陸上を始め、小林高校駅伝部に所属し、活躍しました。「高校時代、地域の人のちの応援や協力のおかげ

で、厳しい練習も乗り越えることができました」。現在は、教員をしながら週3回以上の練習を続け、こばやし駅伝競走大会や市町村対抗駅伝大会などでも活躍しています。「今後も地域の大会に積極的に出場し、走ることで地域へ恩返ししたい。また、学校の先生として子どもたちにも走ることを楽しさを教えていきたいです」と夢を語ります。



④安定した走りです。チームに貢献した市町村対抗駅伝競走大会 ⑤こばやし駅伝競走大会では、「走る距離が短かったので、最初から飛ばしました」と園田さん



市民が笑顔になれる小林市の推進に向け2年目がスタート

3月末に多くの市職員が退職をされ、4月には、新入職員が入庁します。新入職員の皆様には先輩方の指導を受け早く一人前の職員として市政の発展に尽くしてほしいと思います。

各学校や職場でもこうした光景は春に多く見られるかと思えます。この時期、新天地での慣れない生活で精神的に体調を崩す方が多くなる傾向にあると聞きます。新生活を迎えられた皆様におかれましては、休みをしっかり取りながら、健康を第一に頑張っていたいただきたいと思えます。

私も、4月23日で、市長就任一年が経過します。大変忙しい毎日の繰り返しの中でも、この一年、多くの団体の方々と意見交換などを通して、さまざまなお意見を賜ることができました。また、

市職員とも50回近くの意見交換会を重ね、職員との意思の疎通に努めてきたところでもあります。人口減少社会と厳しい財政状況の中では、市民の皆様と対話をしながら、時には痛みが伴う改革も進めていかなければなりません。

「市民が笑顔になれる小林市」の推進に向けて任期2年目をスタートさせます。



宮原市長のコラム

「信念を貫く」

Check!
Volume.4